

直前講習

解答

Z会東大進学教室

直前東大文系数学発展演習

【2回目】



## 問題

〔1〕 まず、 $f(n)$  が

$$f(n) = 5^{2n}(5^n + 1) + 5^n + 1 = (5^n + 1)(5^{2n} + 1)$$

と分解できることに着目する。

(1) 一般に、正整数  $N$  が奇数のとき、次が成り立つ：

これを用いて、題意を示す。

$n$  は 4 の倍数でないから、 $n$  を 4 で割った余りは 1, 2, 3 のいずれかである。

( i )  $n$  を 4 で割って余りが 1 または 3 であるとき,  $n$  は奇数である. よって  $f(n)$  の因数  $5^{2n} + 1$  について

$$5^{2n} + 1 = 25^n + 1$$

に着目すると、 $n$  が奇数であることから、①で  $x = 25$  として  $25^n + 1$  は  $25 + 1 = 26 = 2 \cdot 13$  を因数にもつ。よって確かに  $13 \mid f(n)$  が成り立つ。

(ii)  $n$  を 4 で割って、余りが 2 であるとき、奇数  $m$  について  $n = 2m$  が成り立つ。よって  $f(n)$  の因数  $5^n + 1$  について、

$$5^n + 1 \equiv 5^{2m} + 1 \equiv 25^m + 1$$

で  $m$  が奇数であるから、(i) と同様にして  $5^n + 1 = 25 + 1 = 2 \cdot 13$  を因数にもつ。よってこのときにも、 $13 \mid f(n)$  が成立。

以上、( i ), ( ii ) より、題意が成立する。

(証終)

(2) 13を法とする合同について考察する。

条件  $4 \mid n$  より  $k$  を正整数として  $n = 4k$  と置ける. このとき,

$$\begin{aligned}
 f(n) &= (5^n + 1)(5^{2n} + 1) \\
 &= (5^{4k} + 1)(5^{8k} + 1) \\
 &= (25^{2k} + 1)(25^{4k} + 1) \\
 &\equiv \{(-1)^{2k} + 1\}\{(-1)^{4k} + 1\} \pmod{13} \quad (\because 25 \equiv -1 \pmod{13}) \\
 &= 2 \cdot 2 = 4
 \end{aligned}$$

よって  $f(n) \equiv 4 \pmod{13}$  が成り立つから,

$4 \mid n$  のとき,  $f(n)$  を 13 で割った余りは 4 (答)

参考

(1) 13を法とする合同について考えると、極めて鮮明な次の証明が得られる：

$25 \equiv -1 \pmod{13}$  であるから,

( i )  $n$  が奇数のとき,

$$5^{2n} + 1 = 25^n + 1 \equiv (-1)^n + 1 \pmod{13}$$

$$\equiv -1 + 1 = 0 \quad \therefore f(n) \equiv 0 \pmod{13}$$

(ii)  $n$  が偶数かつ 4 の倍数でないとき, つまり  $m$  を奇数として  $n = 2m$  のとき

$$\begin{aligned}5^n + 1 &= 25^m + 1 \equiv (-1)^m + 1 \pmod{13} \\&= -1 + 1 = 0 \quad \therefore \quad f(n) \equiv 0 \pmod{13}\end{aligned}$$

いずれにしても,

$$f(n) \equiv 0 \pmod{13} \quad \therefore \quad 13 \mid f(n)$$

### ■ 補足

一般に整数  $a$  が整数  $b$  で割り切れるとき,  $b \mid a$  と表す.

---

#### 【配点の目安】

配点: 25 点

(1) 15 点      (2) 10 点

(1)   $5^{3n} + 5^{2n} + 5^n + 1 = (5^n + 1)(5^{2n} + 1)$  の因数分解に ..... 3 点

$x^N + 1$  の因数分解 (①式) に ..... 4 点

(i) の証明ができる ..... 4 点

(ii) の証明ができる ..... 4 点

(2)  余りが 4 となる説明に ..... 5 点

答の「余り 4」に ..... 5 点

【2】赤球  $r$  個、白球  $w$  個の状態を  $(r, w)$  で表せば、すべての状態は

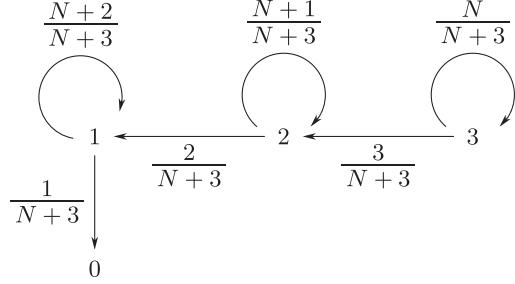
$$(1, N+2), (2, N+1), (3, N), (0, N+3),$$

で尽くされる。更に、袋の中の球の総数は常に  $(N+3)$  個であることから、赤球の個数  $r$  が定まれば状態は一意的に決定するから、 $r = 1, 2, 3, 0$  の状態をそれぞれ

1 2 3 0

で表すと、次の図1 状態遷移図を得る。

図1 状態遷移図



(1)  $n$  回目の試行の前に、 $r = i$  (ただし  $r = 1, 2, 3$ ) である確率を  $Q_{i,n}$  と表すと、事象

$n$  回目の試行の前に  $r = i$  であり、かつ赤球が取り出される確率  $P_{i,n}$  について、次が成り立つ：

$$P_{1,n} = Q_{1,n} \cdot \frac{1}{N+3} \quad \therefore Q_{1,n} = (N+3)P_{1,n} \quad \dots \quad ①$$

$$P_{2,n} = Q_{2,n} \cdot \frac{2}{N+3} \quad \therefore Q_{2,n} = \frac{N+3}{2}P_{2,n} \quad \dots \quad ②$$

$$P_{3,n} = Q_{3,n} \cdot \frac{3}{N+3} \quad \therefore Q_{3,n} = \frac{N+3}{3}P_{3,n} \quad \dots \quad ③$$

また、図1より

$$Q_{1,n+1} = Q_{1,n} \cdot \frac{N+2}{N+3} + Q_{2,n} \cdot \frac{2}{N+3} \quad \dots \quad ④$$

$$Q_{2,n+1} = Q_{2,n} \cdot \frac{N+1}{N+3} + Q_{3,n} \cdot \frac{3}{N+3} \quad \dots \quad ⑤$$

$$Q_{3,n+1} = Q_{3,n} \cdot \frac{N}{N+3} \quad \dots \quad ⑥$$

④, ①, ②から

$$(N+3)P_{1,n+1} = (N+3)P_{1,n} \cdot \frac{N+2}{N+3} + \frac{N+3}{2}P_{2,n} \cdot \frac{2}{N+3}$$

$$\therefore P_{1,n+1} = \frac{N+2}{N+3}P_{1,n} + \frac{1}{N+3}P_{2,n} \quad (\text{答})$$

同様に⑤, ②, ③から

$$\frac{N+3}{2}P_{2,n+1} = \frac{N+3}{2}P_{2,n} \cdot \frac{N+1}{N+3} + \frac{N+3}{3}P_{3,n} \cdot \frac{3}{N+3}$$

$$\therefore P_{2,n+1} = \frac{N+1}{N+3}P_{2,n} + \frac{2}{N+3}P_{3,n} \quad (\text{答})$$

⑥, ③から

$$\begin{aligned}\frac{N+3}{3}P_{3,n+1} &= \frac{N+3}{3}P_{3,n} \cdot \frac{N}{N+3} \\ \therefore P_{3,n+1} &= \frac{N}{N+3}P_{3,n} \quad (\text{答})\end{aligned}$$

(2)  $r = 1, r = 2, r = 3$  であるという事象は排反であるから,

$$P_n = P_{1,n} + P_{2,n} + P_{3,n}$$

が成り立つ。従って、添え字  $n$  を  $n+1$  にすると

$$\begin{aligned}P_{n+1} &= P_{1,n+1} + P_{2,n+1} + P_{3,n+1} \\ &= \frac{N+2}{N+3}P_{1,n} + \frac{1}{N+3}P_{2,n} + \frac{N+1}{N+3}P_{2,n} + \frac{2}{N+3}P_{3,n} + \frac{N}{N+3}P_{3,n} \\ &= \frac{N+2}{N+3}(P_{1,n} + P_{2,n} + P_{3,n}) = \frac{N+2}{N+3}P_n\end{aligned}$$

が成り立つ。

$P_1 = \frac{3}{N+3}$  であるから、数列  $\{P_n\}$  は初項  $\frac{3}{N+3}$ 、公比  $\frac{N+2}{N+3}$  の等比数列になり、

$$P_n = \frac{3}{N+3} \left( \frac{N+2}{N+3} \right)^{n-1} \quad (\text{答})$$

### 【配点の目安】

配点 : 25 点

- (1) 15 点 (2) 10 点

(1)  <sub>1</sub> 「図 1 状態遷移図」のような状態が把握できていれば ..... 3 点

<sub>2</sub>  $P_{1,n+1}$  を  $P_{1,n}$  と  $P_{2,n}$  で表して ..... 4 点

<sub>3</sub>  $P_{2,n+1}$  を  $P_{2,n}$  と  $P_{3,n}$  で表して ..... 4 点

<sub>4</sub>  $P_{3,n+1} = \frac{N}{N+3}P_{3,n}$  に ..... 4 点

(2)  <sub>1</sub>  $P_n = P_{1,n} + P_{2,n} + P_{3,n}$  に ..... 3 点

<sub>2</sub>  $P_{n+1} = \frac{N+2}{N+3}P_n$  を導いて ..... 3 点

<sub>3</sub> 答に ..... 4 点

【3】(1) 与えられたベクトルの和を求めると、任意の非負整数  $n$  について

$$\begin{aligned} & \overrightarrow{P_{6n}P_{6n+1}} + \overrightarrow{P_{6n+1}P_{6n+2}} + \cdots + \overrightarrow{P_{6n+5}P_{6n+6}} \\ &= a\vec{u} + b\vec{v} + c\vec{w} - a\vec{u} - b\vec{v} - c\vec{w} \\ &= \vec{0} \end{aligned}$$

であるから、2点  $P_{6n}$  と  $P_{6n+6}$  は一致する。

従って、一般に 6 を法として

$$i \equiv j \pmod{6} \iff P_i = P_j$$

が成り立つから、点列  $\{P_n\}$  は周期 6 をもつ循環点列となる。 $a, b, c$  はすべて正であるから、図形  $P_{6n}P_{6n+1}P_{6n+2}\cdots P_{6n+5}$  は6角形を作る。これを  $H$  とする。

図 1 3つの単位ベクトル

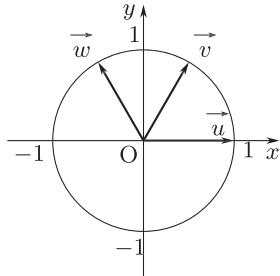
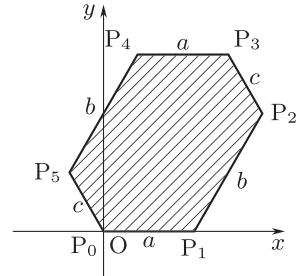


図 2 6角形  $H$



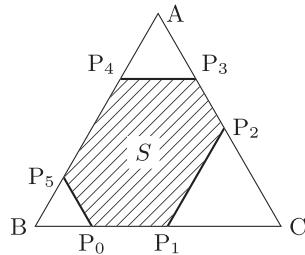
さらに、図 1 のように、 $\vec{u}, \vec{v}, \vec{w}$  の、 $x$  軸正方向とのなす角はそれぞれ  $0, \frac{\pi}{3}, \frac{2\pi}{3}$  であるから、 $H$  の内角はすべて  $\frac{2\pi}{3}$  となり、対辺の長さは 3組ともすべて等しい。

これを図示して、図 2 を得る。

(2) 点列  $\{P_n\}$  は周期 6 で循環するから、特に  $H$  を  $P_0P_1\cdots P_5$  として一般性を失わない。

辺  $P_0P_1, P_2P_3, P_4P_5$  を両方向へ延長して、交点を図 3 のように A, B, C と定めれば、 $\triangle ABC$  は正3角形となり、その1辺は  $a+b+c$  となる。

図 3  $H$  の面積  $S$



この面積を  $S$  とすると、相似比と面積比の関係から

$$\begin{aligned} S &= \frac{\sqrt{3}}{4}(a+b+c)^2 - \frac{\sqrt{3}}{4}(a^2 + b^2 + c^2) \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2}(ab + bc + ca) \end{aligned}$$

となる。この  $S$  を、 $4a + 3b + 2c = 1$  の下で最大にする。

$V = ab + bc + ca$  とする.  $c = \frac{1 - 4a - 3b}{2}$  を代入して

$$\begin{aligned} V &= ab + (b+a) \cdot \frac{1 - 4a - 3b}{2} \\ &= -\frac{1}{2}(a+b)(4a+3b-1) + ab \\ &= -2a^2 + \frac{1-5b}{2}a - \frac{3}{2}b^2 + \frac{1}{2}b \\ &= -2\left(a - \frac{1-5b}{8}\right)^2 + \frac{(1-5b)^2}{32} - \frac{3}{2}b^2 + \frac{1}{2}b \end{aligned}$$

この第 2 項目以降は

$$-\frac{23}{32}b^2 + \frac{6}{32}b + \frac{1}{32} = \frac{1}{32}(-23b^2 + 6b + 1)$$

となり,

$$-23b^2 + 6b + 1 = -23\left(b - \frac{3}{23}\right)^2 + \frac{32}{23}$$

と平方完成されるから、結局

$$V = -2\left(a - \frac{1-5b}{8}\right)^2 - \frac{23}{32}\left(b - \frac{3}{23}\right)^2 + \frac{1}{23}$$

を得る。

従って、 $V$  が最大となるのは

$$a - \frac{1-5b}{8} = 0 \text{かつ } b = \frac{3}{23} \iff a = \frac{1}{23}, b = \frac{3}{23}, c = \frac{5}{23}$$

のときで、これは  $a, b, c$  が正であるという条件をみたす。

このとき、 $S = \frac{\sqrt{3}}{2}V$  より

$$\max S = \frac{\sqrt{3}}{46}, (a, b, c) = \left(\frac{1}{23}, \frac{3}{23}, \frac{5}{23}\right) \quad (\text{答})$$

### 【配点の目安】

配点：25 点

- (1) 15 点      (2) 10 点

(1)  $\square_1 \overrightarrow{P_{6n}P_{6n+1}} + \overrightarrow{P_{6n+1}P_{6n+2}} + \cdots + \overrightarrow{P_{6n+5}P_{6n+6}} = \vec{0}$  を示して ..... 5 点

$\square_2$  6 角形の内角がすべて  $\frac{2}{3}\pi$  であることに気づいて ..... 5 点

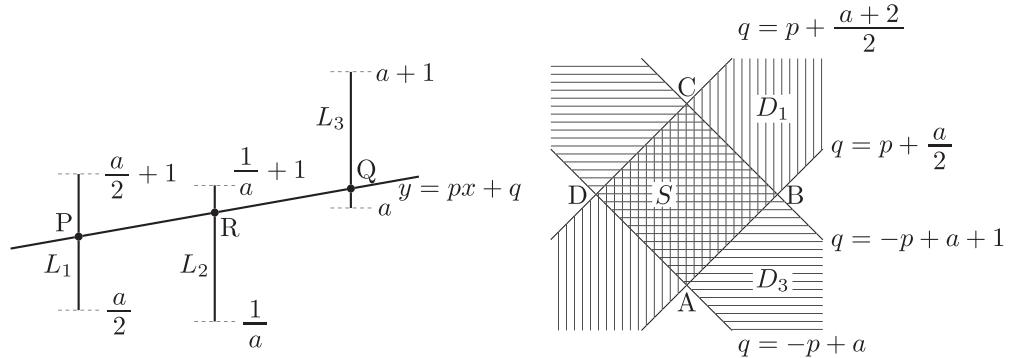
$\square_3$  図示に ..... 5 点

(2)  $\square_1 S = \frac{\sqrt{3}}{4}(a+b+c)^2 - \frac{\sqrt{3}}{4}(a^2+b^2+c^2)$  に ..... 3 点

$\square_2$  最大値に ..... 4 点

$\square_3 (a, b, c) = \left(\frac{1}{23}, \frac{3}{23}, \frac{5}{23}\right)$  に ..... 3 点

[4]



- (1) \$l: y = px + q\$ が線分 \$L\_1\$ と共有点 \$P\$ をもつならば、その \$x\$ 座標は \$-1\$ であるから、\$P(-1, -p + q)\$ である。従って、\$y\$ 座標について

$$\frac{a}{2} \leq -p + q \leq \frac{a}{2} + 1 \iff p + \frac{a}{2} \leq q \leq p + \frac{a}{2} + 1$$

が成り立つ。これは、\$pq\$ 座標平面で右上図の帯状領域 \$D\_1\$ を表す。

同様に線分 \$L\_3\$ と共有点 \$Q\$ をもつことから、

$$a \leq p + q \leq a + 1 \iff -p + a \leq q \leq -p + a + 1$$

が成り立つ。これは、\$pq\$ 座標平面で右上図の帯状領域 \$D\_3\$ を表す。

このいずれもが成り立つとき、直線 \$l\$ は 2 本の線分 \$L\_1, L\_3\$ の両方と共有点をもつ。従って、求める条件は

$$\left( p + \frac{a}{2} \leq q \leq p + \frac{a}{2} + 1 \right) \wedge \left( -p + a \leq q \leq -p + a + 1 \right)$$

となり（ここで \$\wedge\$ は、「かつ」（and）を表す）、\$pq\$ 座標平面に図示すれば、右上図の正方形領域 \$S = D\_1 \cap D\_3\$ となる。（答）

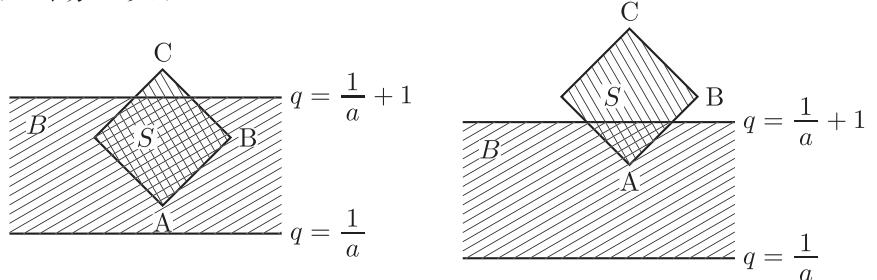
- (2) 直線 \$l: y = px + q\$ が、線分 \$L\_2\$ と共有点 \$R\$ をもつとすれば、\$R(0, q)\$ であるから、

$$\frac{1}{a} \leq q \leq \frac{1}{a} + 1$$

であり、これは下図の帯状領域 \$B\$ となる。従って \$l\$ が 3 線分 \$L\_1, L\_2, L\_3\$ と共有点をもつためには、(1) で求めた集合 \$S\$ と、この帯状領域 \$B\$ が共有点をもつこと、つまり、\$S\$ と \$B\$ の共通部分が空集合でないこと

$$S \cap B \neq \emptyset$$

が必要かつ十分である。



点 \$A\$ と点 \$C\$ の \$q\$ 座標を求める。\$A\$ は 2 直線 \$q = p + \frac{a}{2}\$ と \$q = -p + a\$ の交点で

あるから、連立して  $p = \frac{a}{4}$ ,  $q = \frac{3a}{4}$  を得る。よって  $A(\frac{a}{4}, \frac{3a}{4})$ 。また、 $A$  と  $C$  の  $p$  座標は等しく、 $q$  座標の差は 1 であるから、 $C(\frac{a}{4}, \frac{3a}{4} + 1)$  である。

正方形領域  $S$  と帯状領域  $B$  について、

$$S \cap B \neq \emptyset \iff \left( \frac{3a}{4} \leq \frac{1}{a} + 1 \right) \wedge \left( \frac{3a}{4} + 1 \geq \frac{1}{a} \right)$$

である。これらの不等式を解く。 $a > 0$  であるから

$$\begin{aligned} \frac{3a}{4} &\leq \frac{1}{a} + 1 \\ \iff 3a^2 &\leq 4 + 4a \\ \iff (3a+2)(a-2) &\leq 0 \\ \iff -\frac{2}{3} &\leq a \leq 2 \\ \frac{3a}{4} + 1 &\geq \frac{1}{a} \\ \iff 3a^2 + 4a &\geq 4 \\ \iff (3a-2)(a+2) &\geq 0 \\ \iff a &\leq -2, \frac{2}{3} \leq a \end{aligned}$$

これらの共通部分を求めて、

$$\frac{2}{3} \leq a \leq 2 \quad (\text{答})$$

### 【配点の目安】

配点：25 点

(1) 11 点      (2) 14 点

- |  |
|--|
| (1) $\square_1 p + \frac{a}{2} \leq q \leq p + \frac{a}{2} + 1$ に ..... 4 点                      |
| $\square_2 -p + a \leq q \leq -p + a + 1$ に ..... 4 点  |
| $\square_3$ 図示に ..... 3 点  |
| (2) $\square_1 \frac{1}{a} \leq q \leq \frac{1}{a} + 1$ に ..... 4 点                              |
| $\square_2 \frac{3}{4}a \leq \frac{1}{a} + 1$ かつ $\frac{3}{4}a + 1 \geq \frac{1}{a}$ に ..... 5 点 |
| $\square_3 \frac{2}{3} \leq a \leq 2$ に ..... 5 点  |





MJB

直前東大文系数学発展演習

【2回目】



会員番号

氏名

不許複製